

新学術領域研究「グローバル関係学」

第3回

若手研究者報告会

日時 2019年12月21日(土)・22日(日)午前・午後(プログラムは裏面をご参照)

会場 千葉大学 柏の葉キャンパス 環境健康フィールド科学センター 本部管理棟二階奥
(住所：千葉県柏市柏の葉6丁目2-1)

交通アクセス <http://www.chiba-u.ac.jp/access/kashiwanoha/>

文科省科学研究補助金 新学術領域研究

「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」
(略称「グローバル関係学」)は、平成28年度より、拠点となる千葉大学を含めた
研究教育諸機関における社会科学、人文科学の最先端の学者を結集し、
「グローバル関係学」という新たな研究領域の確立を目指して研究を進めています。

「グローバル関係学」が問題視するのは、現在、中東やアフリカ、アジアや南東欧など、世界各地での紛争、対立が、情報や思想・モノやカネ・人の移動のグローバル化などの影響を受け、複雑に絡み合うことによって、国際的な危機をもたらしていることです。

こうした現代的諸問題が示すのは、20世紀までの主権国家とそれを軸とした国際社会という近代社会科学的「常識」が崩壊し、社会の安定と発展を確保してきた諸制度が機能不全に陥っているという、危機的な事実です。しかし、こうした「新しい危機」ともいえる事象について、分野横断的な包括的視座をもって分析した研究は、いまだ存在しません。危機に瀕している現代のグローバル社会の問題を読み解くには、主体そのものを分析の対象とするだけでなく、主体内部の関係性や、さまざまなレベル、規模の主体が相互に関係しあう、その関係性の変化と相互連関性を見ていくことが、必要です。「グローバル関係学」は、さまざまな関係性に光を当てた研究を、狭い範囲の共同体からグローバルなネットワークまで、幅広く行い、諸学問の壁を壊し、現実の危機にキャッチアップできる、新しい学問領域を構築することにほかなりません。

「グローバル関係学」事業では同種の問題意識、研究方向性を持つ若手の研究者の協力を、社会科学、人文科学、自然科学の分野を問わず、幅広く求めており、上記の日程で、第3回「グローバル関係学若手研究者報告会」を開催いたします。

※タイムテーブルは裏面の通り

新学術領域研究「グローバル関係学」若手育成委員会

問い合わせ先：千葉大学グローバル関係融合研究センター
Tel: 043-290-3029/ Mail: center-gbl(a)chiba-u.jp



国立大学法人千葉大学
CHIBA UNIVERSITY

2019年12月21日(土) Dec.21 (Sat.)

司会進行 山尾 大 (九州大学)

- 9:30～ 開場・受付
- 10:00～10:30 酒井 啓子 (千葉大学)
開会の挨拶 Opening Remark
- 10:10～10:25 松永 泰行 (東京外国語大学)
「グローバル関係学とはなにか」 Keynote Speech
- 10:30～11:10 松岡 佐知 (国立民族学博物館／学振特別研究員PD)
「非制度的医療と制度的医療：南インドにおける伝統的治療師とアーユルヴェーダの関係性を事例に」
- 11:10～11:50 稲永 祐介 (東京外国語大学)
「歴史的出来事の関係構造 —— 社会学的発想による方法論的な貢献として」
- 11:50～12:30 Tareq Sydiq (千葉大学／学振外国人特別研究員)
“Pursuing political interests within authoritarianism: The case of Iran”
- 12:30～13:30 【昼食 Lunchtime】
- 13:30～14:10 Zhiqiang Zou (Middle East Studies Institute of Shanghai International Studies University)
“China and Seaport Development in the Eastern Mediterranean: Dynamics and Prospects”
- 14:10～14:50 波多野 綾子 (東京大学)
“Internalization of the International Human Rights Law and Culture”
- 14:50～15:30 ZHANG Peizhi (東京大学)
“Contested Legitimacy of Environmental NGOs: Lessons from Anti-Whaling Campaign”
- 15:30～15:40 【休憩 Coffee Break】
- 15:40～16:20 鄭 傲民 (京都大学アフリカ地域研究資料センター)
「韓国援助政策の変化—OECD DAC加盟時期を中心に」
- 16:20～17:00 福田 聖子 (日本大学)
「マラウイにおける栄養改善を目的とした果樹栽培普及の取り組み」
- 17:00～17:10 酒井 啓子 閉会の挨拶 Closing Remark

2019年12月22日(日) Dec.22 (Sun.)

司会進行 山尾 大

- 9:30～ 開場・受付
- 10:00～10:40 木山 幸輔 (同志社大学／学振特別研究員PD)
「グローバル関係における人権の描き方：因果追跡、責任主体、侵害・達成の回路」
- 10:40～11:20 上林 朋広 (一橋大学)
「部族と普遍の間：Z. K. マッシューズの人類学・原住民法研究から見る南アフリカ市民権要求の論理」
- 10:20～11:00 東海林 拓人 (東京大学)
「未承認国家における「民主化」：公定ナショナリズム形成手段としての競争的選挙」
- 12:00～13:00 【昼食 Lunchtime】
- 13:00～13:40 大津留 香織 (北九州市立大学)
「関係修復と物語、そして物語実践：ヴァヌアツ共和国の事例から」
- 13:40～14:20 田中 翔 (大阪大学)
「ECOWASの共通難民庇護政策における要因分析」
- 14:20～14:30 高垣 美智子 (千葉大学)
閉会の挨拶 Closing Remark